

## 女性はもっと活躍できる！

11月15日。秋晴れの澄みきった青天が広がる東京で、国連ウィメン日本協会さくら主催の認定NPO法人国連ウィメン日本協会・副理事長岩田喜美枝氏の講演会を開催いたしました。当日は、なんと一冊の会最高顧問・赤松良子先生がお見えになり、お話をいただくことができました。永田町に解散風が吹き、超多忙な赤松先生が、厚労省時代の後輩である岩田副理事の講演に30分だけでもとお見えになられたそのお姿に、赤松先生の温かいお心遣いを感じました。



この度、岩田副理事長には、「女性はもっと活躍できる」と題し、働く女性に焦点をあてたお話をしていただきました。100名以上の応募があった中から、会場である憲政記念館には多く



の参加者が集結。その中には、先生に引率された大妻中野中学校・高等学校の女子学生の皆さんも出席していました。時折ユーモアを交えながら分かりやすく話される岩田副理事長のお話には、熱心にメモを取りながら聞き入る人も。未来ある若い学生のパワーを受けて、岩田副理事長も講演に熱の入ったご様子でした。女性が活躍している職場は、必ず男性も活躍しているというお話から、男女の性差をプラスに考え、さらに一歩進んで「多様性」を認めることが必要であること。そこに気付いていないために、働く女性

性は活躍の機会を失い、雇用主側も能力ある女性の力を埋もれさせるもったいない状況になってしまっている企業が多い現状。女性が子育ての為に仕事を辞めるのは日本と韓国に特徴的に見られる現象で、産休・育休の支援制度は本当に困っている人のセーフティーネットであるべきという考え。子育てを手伝ってもらえなかった女性の恨みは一生残る・・・などなど。第一線で活躍してこられた岩田副理事長の実践に基づくリアルなお話を沢山してくださいました。男女が一緒になって考え、企業体制を変えていくことが女性のキャリアアップに繋がっている。そのしくみとして、経



済の分野においては結果に責任を負うクォータ制ではなく、育成目標としてのゴール・アンド・タイムテーブル方式を、との提唱がありました。素晴らしい岩田副理事長のご講演に、会場も熱気に包まれ、あっという間の1時間半でした。今回のお話は、今まさに、社会人として働く私達にとって、声を大にして伝えていきたい内容が盛りだ



くさんでした。そして、これから進路を決めて社会という大海原に漕ぎ出していく若き女子学生達には、未来への希望と頑張る勇気を与えたことでしょう。2020・30運動が加速する今、老若男女、知恵を出し合い、一丸となって、女性がもっと活躍できる社会を目指していきたいと思います。国連ウィメンへの拠出金参加者増員活動に心をくたく大槻会長の発案で、出席者全員が募金箱持参の記念撮影も大成功に終了しました。

岩田副理事長の講演の後、先月韓国で総会のあった FAWA (アジア・太平洋女性連盟) の報告会をいたしました。21世紀を担う若手人材育成を目指す大槻櫻華塾塾長の想いを受けて、一冊の会は若手を前面に出し、男性の理解を得ながら活動しています。そこで今回は、男性も含めた若手のみで報告をする大任をいただきました。椎名節子さんは初めて FAWA に参加しての感想と、特に人気を呼んだ日本の着物(お振袖)の話。FAWA の分科会で、自分の普段の仕事から感じる意見を発表した赤田美香子さん。山内聖士さんは記者として参加して感じた事を、今元佑美さんは参加できなかった悔しさを伝えました。最後に村岡清佳さんが、スライドを用いて当日の様子を紹介しました。私も、分科会では女性の教育をテーマに話し合い、自分の体験に基づく意見を発表してきたことをご報告させていただきました。FAWA で各国の実情を語り合うとき、お互いの環境や文化の違いを強く感じました。

言語も文化も違う国々の人が集ったとき、何について語り合ったのかを問われると、女性の人権でした。51カ国のアジアの国々が集い、総勢790名が出席した今回の FAWA 韓国総会。

今回も多く先輩方のお力添えにより、無事に講演会及び報告会を終えることができました。特に、FAWA 報告会では、若者に発表を任せくださり、影から支える事に徹してくださった先輩方に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

追伸 各地にある櫻華塾グループごとに岩田先生の講演をどのように聞いたか、実践するかをの討論を重ねました。又、大妻中野女子中学校・高等学校等はクラブとして感想発表を持ちたいとの報告も受けています。